

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年11月15日

計画の名称	J R 芦屋駅周辺地区都市再生整備計画												
計画の期間	平成31年度 ~ 令和03年度 (3年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	芦屋市												
計画の目標	<p>【大目標】「芦屋」を発信する多世代交流のまちづくり</p> <p>【目標1】安心・安全な歩行者空間の整備により、本地区周辺への回遊性向上を図る。</p>												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	83	A	83	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初		R3末
1	市街地再開発事業区域内に流入する歩行者交通量を18,287人/日から21,944人/日に増加 市街地再開発事業区域内に流入する歩行者交通量(区域周辺5カ所)	18287人/日	人/日	21944人/日
2	J R 芦屋駅から国道2号までのバリアフリー化率を17%から100%に増加 J R 芦屋駅から国道2号までのバリアフリー化の割合	17%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業	地域	交付	直接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		種別	種別	対象	間接							H31	R02	R03	R04	R05				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	芦屋市	直接	芦屋市	—	—	J R 芦屋駅周辺地区都市 再生整備計画事業	地域生活基盤施設 A=8.0ha	芦屋市	■	■	■			83		—	
												小計						83		
											合計						83			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制		事後評価の実施時期	
芦屋市公共事業評価検討委員会		令和4年度	
		公表の方法	
		芦屋市ホームページ	

○事業効果の発現状況

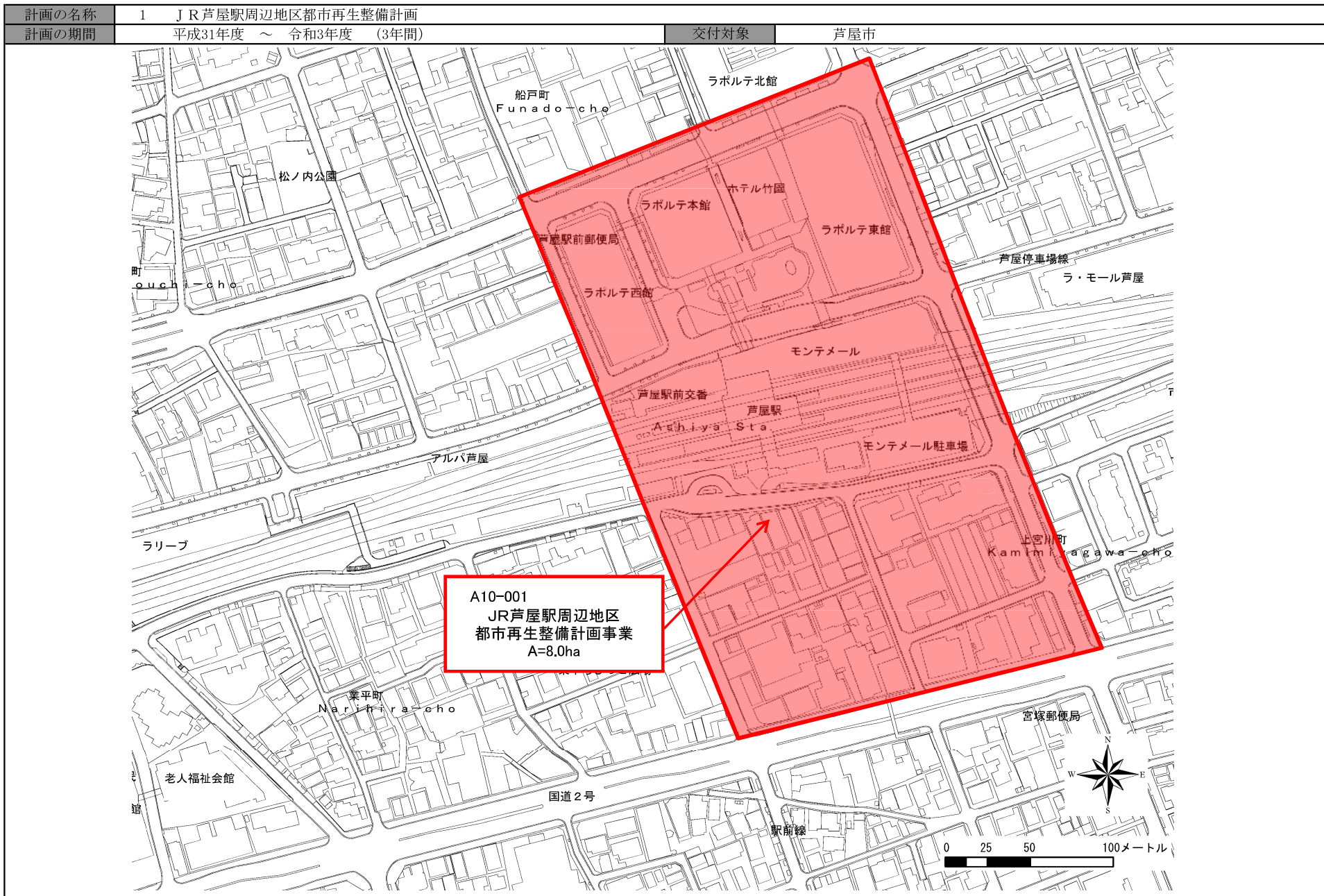
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	事業で予定していた施設が未整備であり、バリアフリー化率を上昇させることはできなかった。また、コロナ禍での人流減の影響も大きく、歩行者交通量の増加は見られなかった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	関連事業である市街地再開発事業を含めた事業着手のアナウンスメント効果により、地区近隣の地価公示価格が平成31年の525千円/m <sup>2</sup> から令和4年の668千円/m <sup>2</sup> へと27%以上上昇している。

○特記事項（今後の方針等）

関連事業である市街地再開発事業と併せて早期にペDESTリアンデッキを整備することで歩車分離、交通結節機能の強化を行い、駅周辺の安心・安全な歩行者空間の整備を図る。  
駅周辺エリアの快適かつ品格のある都市環境及び景観の創出、都市回遊に繋がる一体的なまちづくりのため、周辺道路を活用して回遊性・滞在性向上に繋がる空間整備を行い、周辺エリアへの回遊性の向上とにぎわいの創出を図る。

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	歩行者交通量	
	最終目標値	21944人／日
2	最終実績値	16475人／日
	事業費縮減のための計画見直し等に時間を要し、効果の発現に繋がる施設整備が実施できなかったことに加え、コロナによる外出自粛の影響により全国的に人流が減少しているため。	
	バリアフリー化率（JR芦屋駅から国道2号までの経路）	
	最終目標値	100%
	最終実績値	17%
	事業費縮減のための計画見直し等に時間を要し、効果の発現に繋がる施設整備が実施できなかったため。	

(参考様式3) 参考図面 (社会資本整備総合交付金)



都市再生整備計画 事後評価シート  
JR芦屋駅周辺地区

令和4年11月

兵庫県芦屋市

様式2-1 評価結果のまとめ

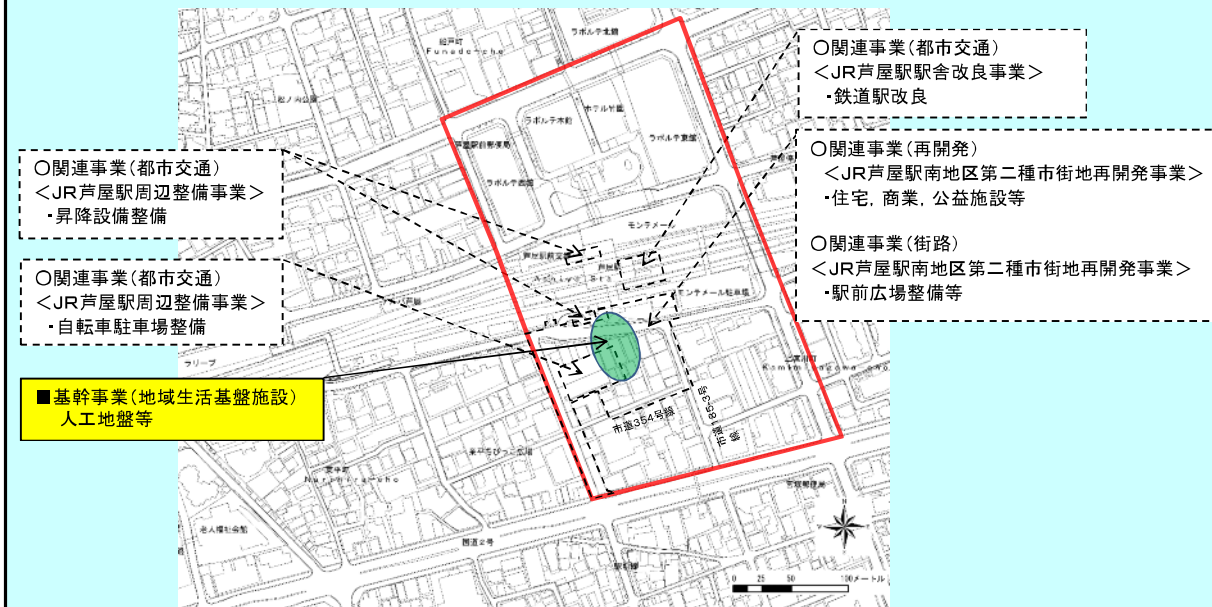
都道府県名	兵庫県		市町村名	芦屋市		地区名	JR芦屋駅周辺地区			面積	8.0 ha		
交付期間	平成31年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	82.5百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路(市道185-3号線(電線類地下埋設施設等)、市道354号線(電線類地下埋設施設))、地域生活基盤施設(人工地盤等、情報板(歩行者案内サイン))、高次都市施設(子育て世代活動支援センター、地域交流センター)									
			提案事業	事業活用調査(事業効果分析)									
	当初計画から削除した事業		事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			基幹事業	道路(市道185-3号線(電線類地下埋設施設等)、市道354号線(電線類地下埋設施設))、地域生活基盤施設(情報板(歩行者案内サイン))、高次都市施設(子育て世代活動支援センター、地域交流センター)				事業費縮減のために事業削除			施設整備自体を取り止めたため高次都市施設利用者数に関する指標を削除		
			提案事業	事業活用調査(事業効果分析)									
新たに追加した事業		基幹事業											
		提案事業											
交付期間の変更		当初	平成31年度～平成34年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		当初予定していた計画を大きく見直したことにより、事業継続が不可能となったため、計画期間を前倒して事業を終了した。						
		変更	平成31年度～令和3年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度				
	指標1	歩行者交通量	人/日	18,287	H27	21,944	R3		16,475	×	あり なし ●	事業費縮減のための計画見直し等に時間を要し、効果の発現に繋がる施設整備が実施できなかったことに加え、コロナによる外出自粛の影響により全国的に人流が減少しているため。	令和10年10月
指標2	バリアフリー化率 (JR芦屋駅から国道2号までの経路)	%	17	H30	100	R3		17	×	あり なし ●	事業費縮減のための計画見直し等に時間を要し、効果の発現に繋がる施設整備が実施できなかったため。	令和10年10月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度				
その他の数値指標1	地区近隣地価公示価格	円/㎡	525000	H31	/			668,000	/	/	関連事業を含めた地区全体の整備計画への期待値が地価上昇に貢献したと考えられる。		
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									



## 様式2-2 地区の概要

### JR芦屋駅周辺地区(兵庫県芦屋市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】「芦屋」を発信する多世代交流のまちづくり 【目標1】芦屋の玄関口としてふさわしい魅力情報の発信や交流拠点の整備により、世代を超えた様々なつながりを創出する。 【目標2】安心・安全な歩行者空間の整備により、本地区周辺への回遊性向上を図る。	歩行者交通量	単位:人/日	18,287	H27	21,944	R3	16,475	R4
	バリアフリー化率(JR芦屋駅から国道2号までの経路)	単位:%	17	H30	100	R3	17	R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペDESTリアンデッキの整備及び関連事業である市街地再開発事業等の施設整備による歩車分離、バリアフリー化による安全性の確保、駅南北の連携と交通結節機能の強化、南の玄関口としての都市機能の導入、落ち着きやゆとりのある駅前の拠点づくり、快適かつ品格のある都市環境及び景観の創出、都市回遊に繋がる一体的なまちづくりが引き続き求められる。</li> <li>・行財政改革等に伴う事業費縮減のためにペDESTリアンデッキの規模縮小及び一部設備を取り止める計画に変更したが、引き続き歩行者の安全かつ快適な通行の確保とコスト縮減の両立が求められる。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連事業である市街地再開発事業と併せて早期にペDESTリアンデッキを整備することで歩車分離、交通結節機能の強化を行い、駅周辺の安心・安全な歩行者空間の整備を図る。</li> <li>・駅周辺エリアの快適かつ品格のある都市環境及び景観の創出、都市回遊に繋がる一体的なまちづくりのため、周辺道路を活用して回遊性・滞在性向上に繋がる空間整備を行い、周辺エリアへの回遊性の向上とにぎわいの創出を図る。</li> </ul>